

鳩間島エコ祭り

世界初、移動型装置公開

発泡スチロール郡内各地巡回し、稼動へ

【鳩間】海岸に漂着する発泡スチロールをスチレン油に変える「車両移動式油化装置(プラント)公開実験(主催・日本海難防止協会)が3日午後、鳩間島コミュニティセンター前広場で開かれ、世界でも初めてとなる移動型プラントがお披露目された。同協会では今後、社会実験として与那国島を皮切りに八重山圏域の沿岸に漂着した発泡スチロールの収集に同装置を活用する。

同装置は昨年からは鳩間島で社会実験が行われている「宝の島プロジェクト」の一貫として設置された固定式油化プラントを軽量・小型化し、4トトラックに設置したもので、移動できることで漂着ごみの回収現場で発泡スチロールを油化する事が可能となり、

漂着ごみの処理コスト低減が期待されている。

公開実験には西表上原の子どもエコクラブ、西表ヤマネコクラブ(池村久美代表の子どもたち4人も参加。鳩間島のNPO法人「南の島々(ふるさと)守り隊(浦崎金雄理事長)の会員らと



世界初のお披露目となった移動型プラントの除幕式
=3日午後、鳩間コミュニティセンター前広場



「エコ祭り」で作られた綿あめを食べる西表ヤマネコクラブの子どもたち=3日午後、鳩間コミュニティセンター前広場

また、来年3月ごろ

ともに、船原浜で海岸清掃を行ったあと、装置の除幕式が行われた。

式典では同協会の大貫伸主席研究員が「漂着ごみ問題を切り口に離島を宝の島に変える取り組みを鳩間島から発信していく」と述べ、川満栄長町長や日本財団の荻上健太郎海洋安全・教育チームリーダー、西大舩高旬町議会議長らがテープカットを行った。移動型プラントの説

明のあと、海岸清掃で集められた発泡スチロールを子どもたちが次々とプラントに投入。発泡スチロールから油化されたスチレン油を使って発電機を動かす、ごみ由来のエネルギーを使った、かき氷や綿菓子づくりなどの「エコ祭り」を開いた。

続いて行われたミニシンポジウムでは同法人の大城正明事務局長が取り組みを紹介。与那国町の譜久嶺弘幸総務課長や八重山広域圏事務組合の人材育成交流事業で八重山を訪れている花蓮市公所(市役所)の葉清貴さんらも参加、離島発の移動型プラントに興味を示し、NPO法人役員らと意見を交わしていた。